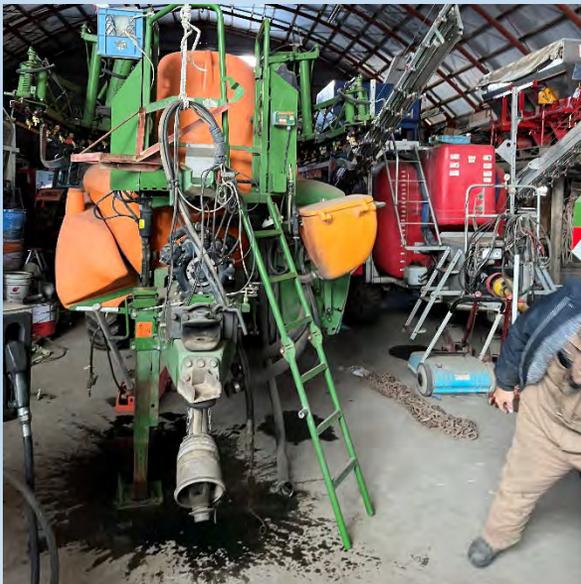


事故調査【事故概要】

- 牽引スプレーヤーで防除作業中、給水の為、共同の水くみ場で牽引スプレーヤーに上がり、スプレーヤーへ給水および農薬を混ぜ終え、牽引スプレーヤーから降車。梯子を上方に折りたたんだがロックがかかっておらず頭部へ落下。
- 頭部から流血し、5針縫う裂傷。



事故調査【受傷後の対応】

- 受傷後、以前も経験があり、流血するとすぐに判断。
- たまたま粗品でもらった新品のタオルがトラクターに積んであり、タオルで抑えながら妻へ電話。
- 妻が電話に出ず、自分で運転して一度自宅へ戻った。
- 妻は自宅におり、妻の運転ですぐに病院へ向かったが救急受け入れしてもらえず、病院到着から受診まで1時間程度の待ち時間があった。
- 頭部を5針縫い、そのまま作業へ復帰した。
- 6日後に抜糸し、完治。

事故調査【事故の原因】

①被災者による要因

- 麦類、たまねぎの防除作業も控えており、焦りや疲れが溜まっていた。

②機械・用具に対する要因

- 牽引スプレーヤーに上らずに給水をする方法もあるが、給水ポンプが遅く、作業効率を上げる為、タンクの上から給水および農薬攪拌を行っていた。
- 梯子のロックがかかりづらく、ロックをかけたつもりがかかっていないことが多々ある。
- 管内で同じ機械を使用している農家戸数が少ない。

事故調査【事故の原因】

ロックがかかっていない状態



ロックがかかった状態



事故調査【事故の原因】

③作業環境等に関する要因

- 気温が高く、太陽もまぶしく、上を見上げるのがまぶしい天候だった。

④被災者以外の人に関する要因

- 家族が電話に出られなかった為、自分で一度自宅へ帰る必要があった。
- 家族が家にいたため、すぐに病院に向かうことができた。

⑤安全管理体制等に関する要因

- 実は6年前に同じ事故にあっており、普段はしっかりロックを確認しているがたまたま行っていなかった。
- 作業が詰まっており、焦りやすいスケジュールになっていた。

事故調査【事故防止対策】

①事故後にとられた対策

- 以前にも同じ事故を起こしたので、より気を付けるように。
- 妻にスマートウォッチを与えた。家にいたが家事をしていて電話に気が付かなかったので、いつでも連絡に気づけるような工夫。

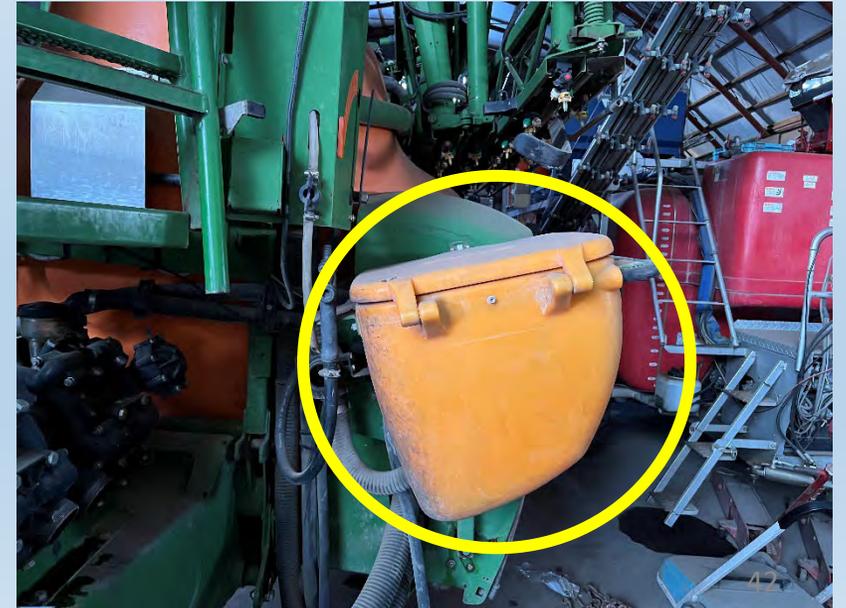
②その他検討している対策

- 梯子にクッション材を付ける、ゴム紐で落ちてこないような工夫。
- 帽子を被って作業していたが、ヘルメット導入を検討。
- 新品のタオルや応急処置セットを常備する必要性を感じた。

事故調査【事故防止対策】

③より安全な機械開発や機械利用に向けた課題

- 梯子がスライド式になるなど、落ちてきてケガをしない仕組みにしてほしい。
- アシストダンパーや電動化し、そもそも落ちてこないような仕組み。
- スプレーヤーに上らなくても給水ができる場所があるが、ポンプが弱く、スムーズな給水ができるようなポンプにしてほしい。



事故調査【その他】

①事故・危険の共有の必要性

- 自分も6年間に同じ事故を起こしたが、父と話をしたら、実は父も同じ事故を起こしていたことがわかった。
- しかし危険を共有されていなかったことも同じ失敗に繋がった。
- 自分のミスを他人に話すのは恥ずかしく、抵抗があるが事故を防止するためには、事故・危険を共有する必要性を感じた。

事故調査【その他】

②実際に事故が起きてしまった時の対処

- 安全講習だけではなく、救急救命講習等、実際に事故を起こした際、目撃した際に対応できるような知識をつけておく必要があると感じた。
- 自分以外でも、周りで事故があった場合、知識を持った青年部員が駆けつけることができれば、助かる命があるかもしれない。
- 救護セット等を作成する。
- 緊急連絡先を調べて共有しておく。
 - 例) 家族の連絡先、電柱が倒れてる場合の連絡先等。
 - 農作業事故は人がケガをする以外にも物を壊してしまう場合もある。

事故調査【ステッカーの活用】

一緒に危険な場所にステッカーを貼付させていただきました。





農業は命を繋ぐ “食” を支える重要な産業



すべての人の「当たり前前の毎日」を守る！

ご清聴ありがとうございました

